

# インドネシアにおける「聞き書き」ESDの 実践と活動普及のための基盤構築

活動地域  インドネシア

つづける助成

2年目

実践

聞き書き研修  
新規参加校数

7校

聞き書き発表会  
参加人数

130人

今年度計画の達成度

90%

目標達成度

90%



「聞き書き」活動の今後の展開について意見を発表する高校生

## 苦労した点と工夫した点

### ■ 苦労した点

広域かつ複数の高校と連携する活動であったため、研修等の日程調整に苦労した。また、地域により異なる言語(地方語)で書かれた作品を全員で共有することが難しかった。

### ■ 工夫した点

成果発表会を1泊2日で実施し、活動の継続に向けた話し合いを行った。教員、学生双方とも、活動の意義や今後の展開について、積極的な意見を述べてくれた。

## 課題

インドネシアでは急速な経済発展により自然と共生する伝統的な智慧や文化が失われつつあり、持続可能な発展に資する次世代のためのESD教育が必要とされている。

## 目標

「聞き書き」の手法を活用したESDプログラムがインドネシア各地に普及し、多民族・多文化の共生、伝統智の復活、生物多様性保全等に積極的に取り組む若者が育つ。

## 活動内容と成果

- 中スラウェシ州ゴロンタロ市、ドンガラ県にて研修を実施。24校、42人が参加した
- 西ジャワ州ボゴール県や中カリマンタン州/パランカラヤ市の生徒も含め27人が自然とともに生きる名人(漁民や職人等)を取材し、作品をまとめた
- 西ジャワ州ボゴール市で開催した成果発表会には、高校、大学、NGO関係者など約130人が参加した。あわせて12校の学生、引率教員、NGO関係者等と活動継続のための話し合いを行った
- 「Kikigaki Indonesia」という現地組織を新たに設立した。同組織のWebサイトを現在、制作中



「聞き書き」の意義や効果について話し合う教員

## 全助成期間の活動を振り返って

当団体では、国内の高校生を対象とした「聞き書き甲子園」という活動を行っている。インドネシアで現地の教員・高校生・OBやOGに「聞き書き」の意義を問うと、日本と変わらない意見が多く出ることに驚いた。活動のキーワードは他者への敬意と共感である。また、今後も活動を続けたい、後輩を指導したい、名人と一緒にマングローブの植林活動をしたい等、今後の活動展開に対しても教員・学生とも前向きな意見が多く嬉しかった。



「聞き書き」に参加し優秀賞を受賞した高校生たち

〒156-0043  
東京都世田谷区松原1-11-26 コスモリヴェール松原301  
電話：03-6432-6580  
E-mail：mori@kyouzon.org  
HP：https://www.kyouzon.org



## 今後の展望

活動に協力いただいた大学とNGO関係者で「Kikigaki Indonesia」という新たな組織を立ち上げた。ただ、生まれたばかりの組織で、事務局体制や活動資金は十分ではない。今後は、林業・環境省と連携した新たな事業展開を模索し、事務局体制を強化するとともに、聞き書きに参加したOB・OGのネットワークづくりや日本の学生との交流事業なども計画し、実現したいと考えている。